

英国の歴史的橋梁保全における デザイン諮問機関の役割 -Royal Fine Art Commission 議事録 1924-1939 の分析-

榎本 碧¹

¹ 正会員 研究員 国立研究開発法人土木研究所寒地土木研究所

(〒062-0931 札幌市豊平区平岸1条3丁目1-34)

E-mail: enomoto-m@ceri.go.jp

Royal Fine Art Commission は公共建造物のデザインに関する政府の諮問機関として 1924 年に設立され、公共建造物の新設や歴史的建造物の改修等を実施する際に公的機関からの依頼を受けて設計案のデザイン審査を実施し、助言や指導を行ってきた組織である。本研究では、Royal Fine Art Commission の取り組みがイギリスの歴史的橋梁保全に対してどのような役割を果たしたかを明らかにするために、イギリス国立公文書館に保存されている 1924 年から 1939 年の Royal Fine Art Commission の議事録等の一次資料及び入手可能な関連資料を精査し、当時、歴史的橋梁の補修・補強や建て替えの際にどのような方針で指導、助言を行っていたかを分析した。

Key Words: historic bridge, conservation, preservation, Royal Fine Art Commission, United Kingdom

1. はじめに

世界に先駆けて産業革命を成し遂げたイギリスは、どの国よりも早く社会インフラの老朽化に直面し、日本よりも早くに歴史的橋梁の保全に取り組み始めた国の一つである。

本研究は、戦間期（1919 年～1939 年）のイギリスを対象とし、特に 1924 年に設立された政府のデザイン諮問機関である Royal Fine Art Commission（王立芸術委員会。以下、RFAC とする。）の歴史的橋梁の保全の取り組みに着目した。RFAC は、建築家や技術者等の専門家が参加し、公共空間のアメニティや芸術的な重要性や価値について調査し、必要であれば公的機関へ設計の助言や指導を行う委員会組織であり、建築や橋梁等の公共建造物の新設時や歴史的建造物の改築、歴史的橋梁の補修、拡張時に審査が行われた¹⁾。

本研究は、RFAC が当時のイギリスの歴史的橋梁保全の取り組みにどのような役割を果たしたかを明らかにするため、1924 年から 1939 年の Royal Fine Art Commission の議事録等の一次資料及び入手可能な関連資料の調査を実施し、歴史的価値を評価される橋梁の改修や撤去の計画について、RFAC がどのような方針で指導、助言を行っていたかを分析した。本稿ではこの調査の経過を報告する。

2. 先行研究の整理

本研究の関連研究として、英国の歴史的橋梁保全に関する研究と RFAC に関する研究がある。

大橋ら²⁾、Tilly ら³⁾の研究によれば、第一次世界大戦以降の英国では復員兵や移民の流入による都市拡大と自家用車の急速な普及による交通量の増大により産業革命以降に建設された多くの近代道路橋が取り壊しの対象となる中、近代道路橋を対象とした保全運動が行われたことが述べられている。しかし、これらの研究ではその具体的な取り組みや具体的にどのような議論が展開されたかは明らかにされていない。また、英国の歴史的建造物保全史の観点からみると、Ross⁴⁾、西村ら⁵⁾による多くの論考や著書があり、戦間期の英国の社会背景や歴史手建造物に対する意識について詳細がまとめられているが、ここでは橋梁や土木構造物の保全の関連については述べられていない。

一方、RFAC に関する研究は、Camona らの研究⁶⁾において、設立時から 1984 年までのデザインレビューに関して主に議事録の内容を精査して詳細に分析されている。これらについては、デザインレビューを視点に分析されており、歴史的建造物保全に関する指摘は限定的であるが、当時の委員会メンバーの体制や会の社会的影響力等の分析は本研究の参考となる⁶⁾。また、坂井による

RFACの後進組織であるCABE (the Commission for Architecture and Built Environment) に関する研究⁷⁾では、RFACのデザイン審査についての調査が行われている。ここでは、デザイン審査に関する分析が中心であり、第二次世界大戦以前のRFACの活動については詳細は分析されていない。また、Camonaらの研究と同様に歴史的建造物に関する分析はされていない。著者のウォータールー橋の保全運動に関する研究では、RFACの保全運動への関わりについて触れているが、一事例の分析に留まる⁸⁾。

以上のことから、歴史的橋梁の補修や拡張、建て替え等に事例を絞り、どのような審査や助言が行われたかを精査することで、RFACの歴史的建造物の考え方や保全に対する影響力について検証できると考えられる。

3. 資料の入手方法

本研究では収集した文献は主に The National Archives (英国国立公文書館) に所蔵される RFAC の 1924 年から 1939 年までに発行された議事録及び委員会の関連資料である。調査は 2016 年 8 月 24 日～27 日、2017 年 12 月 5 日～9 日の間に行った。収集した文献リストを表 1 及び表 2 に示す。表 1 の ID は国立公文書館の資料 ID を示している。

The National Archives の資料の収集は図 1 に示すように、カタログ (インターネットを通じて所外利用可) から「Royal Fine Art Commission」「Bridge」等のキーワードにより該当資料を検索し、図 2 に示すように公文書館内で閲覧し、必要箇所をカメラで記録した。

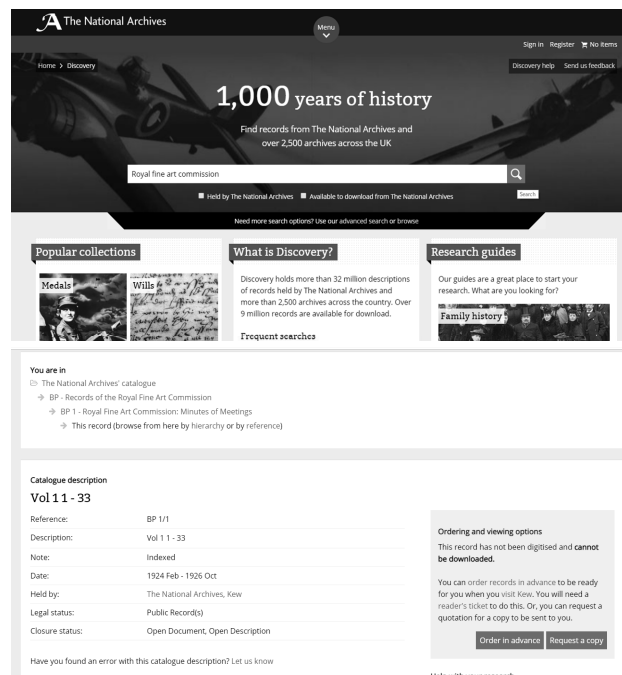


図 1 英国国立公文書館のカタログ検索
(<https://discovery.nationalarchives.gov.uk/>)

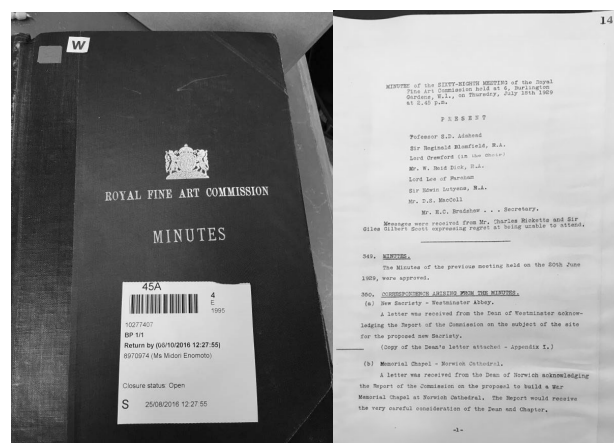


図 2 RFAC 議事録

4. RFAC で議論された橋梁事例：1924 年-1939 年

(1) RFAC で議論された橋梁事例のリスト

1924 年 2 月から 1939 年 12 月 19 日までに実施された全 186 回の RFAC の定例会議事録で確認された橋梁の審査件数の一覧を表 4 に示す。なお、同橋梁で継続審議の場合であっても、議論の日程が異なれば 1 件と重複してカウントしている。() 内の数字が実際に審査対象の橋梁数である。また、工事種類の分類は、RFAC へ最初に提出された際の計画をもとに分類している。議論の過程で工事の種類が変更になった橋梁は存在すると考えられるが、表 4 の集計では考慮していない。

16 年間に RFAC において橋梁を対象に審査された件数は、138 橋 266 件で、そのうち、補強や拡張等の計画であった件数は 9 橋 25 件、既設橋梁を撤去した上で同位置に新橋を建設する計画であった事例は 41 橋 95 件、新設は 88 橋 146 件であった。

設立から 1933 年までは、主にロンドン市内もしくはロンドン近郊の橋梁 10 橋のみが審査の対象となっている。1934 年以降はロンドン市街の橋梁も審査対象となり、それに伴い、年 1～2 橋であった審査件数が年 10 橋へと急激に増加した。道路橋の改修や新設事例が増加した要因として、1920 年代からの不況による失業対策として道路事業が増加し、RFAC への審査依頼も増加したと推測される⁹⁾。なお、1936 年以前のイギリスの橋梁は基本的に自治体管理であり、RFAC のメンバーへの説明や指導・助言について基本的に所管の自治体の技術者やコンサルタントの技術者との間で実施された。

(2) 歴史的橋梁の改修及び架け替え計画に対する RFAC の審査方針

歴史的橋梁の改修及び架け替え計画についての議論をみると、旧橋の撤去については RFAC では設立当時から

慎重な立場を取っており、基本的には撤去を避けるよう改善案の検討を助言、指導していると考えられる。

例えば、1925年から始まった Waterloo Bridge の撤去問題については保存の立場を取り、正式に橋に関しての指導・助言をする立場ではなかったが、『世界的に価値のある歴史的なモニュメント』を保護する立場として、非公式に Waterloo Bridge を所管する自治体や関係者へ撤去の再検討や保存を要請する書簡を送付している¹⁰⁾¹²⁾。

このように、RFAC は歴史的橋梁を保存する立場を取っていたが、一方で、その補強や拡張の方法については、原橋を撤去しないことを第一義的な目的にしながらも、増大する交通量や自治体の立場を考慮し、外観の特徴、アメニティを重視した工法であれば、今日的にはオーセンティシティの観点から不可逆的な改変を承認するような例もみられた。例えば、Kegworth Bridge という 1785 年

に建設された石造橋は、最終的に 15ft から 40ft に拡張されたが、当初計画では 50ft の拡張であった。これに対し委員会では、原橋のパラペットへの影響を考慮して拡張する幅員の再検討を求めているが、拡張の方法についてはプロポーションや外観の特徴が損なわれないよう一方を拡張し、拡張した側の面を旧橋の材料の再利用や地場の材料を使用して旧橋と同じデザインとなることで了承している¹³⁾。

5. まとめ

本研究は、1924 年から 1939 年の RFAC の議事録を精査し、RFAC において歴史的橋梁についてどのような議論が行われ、助言、指導を行っていたかを明らかにした。

表 1 文献リスト：RFAC 議事録

ID	資料名	期間
BP1/1	Royal Fine Art Commission: Minutes of Meetings vol.1	1924.2.1-1926.10.31
BP1/2	Royal Fine Art Commission: Minutes of Meetings vol.2	1926.11.1-1929.5.31
BP1/3	Royal Fine Art Commission: Minutes of Meetings vol.3	1929.5.4-1932.5.1
BP1/4	Royal Fine Art Commission: Minutes of Meetings vol.4	1932.6.1-1934.2.28
BP1/5	Royal Fine Art Commission: Minutes of Meetings vol.5	1934.3.1-1935.6.30
BP1/6	Royal Fine Art Commission: Minutes of Meetings vol.6	1935.7.1-1936.12.31
BP1/7	Royal Fine Art Commission: Minutes of Meetings vol.7	1937.1.1-1938.11.30
BP1/8	Royal Fine Art Commission: Minutes of Meetings vol.8	1938.12.1-1945.11.30

表 2 文献リスト：関連資料

ID	資料名	期間
BP 2/2	Height of buildings: correspondence and minutes	1936.3.1-1938.6.30
BP 2/3	Railways in London squares: correspondence and papers	1941.8.1-1967.12.31
BP 2/20	New Chelsea Bridge	1928.11.9-1938.10.6
BP 2/21	New Chiswick Bridge	1928.5.24-1955.9.19
BP 2/22	Lambeth Bridge	1925.6.27-1959.9.24
BP 2/23	Proposed competition for a new Waterloo Bridge	1924.12.17-1926.6
BP 2/24	Proposed demolition of Waterloo Bridge	1929.6.14-1938
BP 2/25	Repair and widening of Waterloo Bridge	1924.10.24-1934.2.6
BP 2/26	Proposed St Paul's Bridge	1924.2.25-1924.8.9
BP 2/94	New Twickenham Bridge	1928.5-1933.8
BP 2/95	New Hampton Court Bridge	1927.11-1928.6
BP 2/111	Various bridges: correspondence and minutes	1937.3-1952.11
BP 2/163	Strengthening of North Parade Bridge	1935-1944
BP 2/214	Stratford-on-Avon, Warwickshire: Clopton Bridge	1924.1.1-1972.12.3
BP 2/259	Royal Fine Arts Commission: relations with Ministry of Transport concerning bridges	1934.1.1-1948.12.3
BP 2/194	Menai suspension bridge, Anglesey	1937.1.1-1975.12.31
BP 3/1	First: proposed St Paul's Bridge	1924
BP 3/2	Annual Report: Second	1926
BP 3/3	Annual Report: Third	1928
BP 3/4	Annual Report: Fourth	1931
BP 3/5	Annual Report: Fifth	1934
BP 3/6	Annual Report: Sixth	1937
BP 3/7	Annual Report: Seventh	1937-1945

当時は、歴史的橋梁についてはできるだけ原橋を保存し、外観の特徴を保存をする方向で議論されていたと考えられるが、今日的にはオーセンティシティの観点から不可逆的な改変を承認する例も見られ、保全の考え方や技術等は未成熟であったと考えられる。

今後は引き続き、議事録を精査し、保全の対象となっていた橋梁の時代性、保全方針、推奨されていた工法等の分析を進めるとともに、1939年以降の議事録についても調査し、戦間期のRFACの働きが戦後の橋梁保全や保全制度等へどのような影響をもたらしたか考察していく必要がある。

謝辞：この研究は JSPS 科研費 JP16K16336 の助成を受けたものです。

参考文献

- 1) Royal Fine Art Commision (RFAC): Minute of the 4th meeting of the Royal Fine Art Commision, 1924.4.4
- 2) 大橋竜太：英国の建築保存と都市再生，鹿島出版会，2008
- 3) Tily, G.: Conservation of Bridges, Taylor & Francis, 2004
- 4) Ross, M.: Planning and the Heritag: policy and procedure, London and New York, Routledge, 2000
- 5) 例えば，西村幸夫:都市保全計画-歴史・文化・自然を活かしたまちづくり-，東京大学出版会，2004
- 6) Carmona, M. and Renninger, A.: The Royal Fine Art Commission and 75 years of English design review: the first 60 years 1924-1984, Planning Perspectives, 33(1): 53-73, 2018
- 7) 坂井文：近年イギリス都市計画におけるデザイン管理の支援システムに関する研究 CABE（建築都市環境委員会）設立の背景に着目して，日本建築学会計画系論文集 74(635): 153-160, 2009
- 8) 榎本碧：英国における歴史的橋梁の保全黎明期における議論の展開 - ウォータールー橋保全問題 1924-1937 -，日本建築学会計画系論文集, 80(715): 2167-2174, 2015
- 9) RFAC: Various bridges: correspondence and minutes, 1934.10.8

表3 RFACにおける橋梁事例の議論件数

	改修・拡張	再建	新設
1924			7 (1)
1925	4 (1)		
1926		7 (1)	2 (1)
1927			
1928		6 (2)	5 (3)
1929		5 (2)	
1930			1 (1)
1931			1 (1)
1932		7 (1)	
1933		7 (2)	
1934		21 (7)	3 (3)
1935	5 (5)	11 (7)	36 (18)
1936	2 (2)	9 (8)	22 (18)
1937	10	7	13
1938	4 (1)	8 (6)	30 (26)
1939		7 (5)	26 (16)
合計	25(9)	95(41)	146(88)

() 内の数字は議論の対象となった橋梁数



図2 現在の Kegworth Bridge¹⁴⁾

- 10) RFAC: Minute of the 12th meeting, 1925.2.11
- 11) RFAC: Minute of the 13th meeting, 1925.3.12
- 12) RFAC: Minute of the 14th meeting, 1925.4.2
- 13) RFAC: Minute of the 123th meeting, 1935.3.21
- 14) Kegworth Village:
<http://www.kegworthvillage.com/archive/SBridge.jpg>, accessed 2019.4.8

(2019.4.8 受付)

THE ROLE OF THE ROYAL FINE ART COMMISSION FOR HISTORIC BRIDGE CONSERVATION IN THE UNITED KINGDOM -ANALYSIS OF THE MINUTE OF THE COMMISSION FROM 1924 TO 1939-

Midori ENOMOTO

The Royal Fine Art Commission was established in 1924 as a government advisory body for the design of public buildings and structures in England. It received requests from public sectors in carrying out the construction of new public buildings and structures and the improvement of historical buildings and it conducted a design review, and had given advice and guidance.

This research aimed to clarify what role the Royal Fine Art Commission's work played on the conservation of historic bridges in the United Kingdom, examining the primary materials such as the Minutes of the Royal Fine Art Commission and the available related documents in those days. It also analyzed what kind of policy guidance and advice for historic bridges were given in repairing, strengthening, and demolishing the existing bridge and reconstructing the new bridge.